

平成30年度学校自己評価システムシート (県立所沢高等学校・定時制)

目指す学校像	多様な生徒一人一人に相応し、社会的自立を促す親身あふれる温かい教育
--------	-----------------------------------

重点目標	1 授業を大切に、学習意欲を向上させ、基礎学力を定着させる 2 家庭や地域との連携を強め、教育活動を一層充実させる 3 学校行事等の多様な学びの機会を通じて、社会人として自立できる力を育成する
------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	4名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価					学校関係者評価			
年度目標					年度評価(2月1日現在)			
番号	現状課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
					実施日 平成31年2月13日			
					学校関係者からの意見・要望・評価等			
1	<p>(現状) 不登校経験者と外国につながる生徒の存在が大きな特徴である。生徒の自立を促すために外部人材と連携した指導が定着している。</p> <p>(課題) 個々の事情を抱えて進路変更をした生徒が存在している。個に応じた丁寧な指導の継続が課題である。</p>	授業の工夫改善を図り、生徒の基礎学力を定着させる	①外国につながる生徒や学習課題のある生徒に対して、基礎学力の向上に努める。 ②出席状況や授業態度等に変化のある生徒に対して、家庭と連携した指導を実践する。 ③全職員と外部人材との連携を強化し、生徒のニーズに合ったサポートを継続する。 ④魅力ある授業の実践を目指して、授業公開期間や職員研修会を定期的に設定する。	①全生徒を対象にHR面談を実施し、課題のある生徒に対してSC等が適宜面談を実施できたか。 ②欠席時数等を集計することで、生徒の実態把握に努め、生徒情報を共有することができたか ③外部人材との情報交換を適宜実施し、生徒に対して効果的なサポートを実現できたか。 ④授業公開期間を年2回設定し、職員研修会を学期に1回開催できたか。	◎多様な生徒に応じた丁寧な指導により生徒の基礎学力が向上している。達成度はほぼ達成。 ①外部専門員との連携が定着し欠点保有者が減少している。生徒の学習意欲も高まりがある。 ②課題のある生徒の教職員間の情報共有は円滑であり、学校全体で指導できている。 ③日本社会事業大学との連携が進み、生徒に応じた学習サポートを開始することができた。 ④授業公開年3回、職員研修を学期1回実施し、指導力向上に努めている。	A	①欠点保有者の更なる減少に向けた丁寧な指導と面談等を含めた手厚い支援を継続していく。 ②教職員間の情報共有は重視して、生徒の変化を早めに発見できる体制を維持していく。 ③SC等の外部専門員との効果的な連携を図るために、多角的な生徒支援委員会による組織的な体制の確立が課題である。 ④研修会の実施回数を増やす等教員相互に授業研究できる機会を工夫していくことが課題である。	○生徒や保護者の思いを組んだ学校活動を展開してくれている。今後も、教育目標のとおり、自己肯定感を育む指導を継続してもらいたい。 ○教員の連携やチーム力を感じている。今後も、全生徒を大切に丁寧な指導を継続するとともに、規律ある指導を大切にしてもらいたい。 ○アクティブラーニング等の新しい学びを積極的に導入して、生徒に達成感を持たせる授業を展開してほしい。
2	<p>(現状) 本校の多様な外部人材との連携による丁寧な教育活動が、HP等により広がり、入学希望者が増加の傾向である。</p> <p>(課題) HP等を通じて、本校の取組や問題点を発信することで、保護者や地域とより深く連携していくことが課題である。</p>	開かれた学校づくりを目指して、情報発信を充実させる	①入学希望者に対しては、個に応じた丁寧な説明を継続する。 ②HPにおける学校情報は継続的に発信するとともに、生徒の視点からの情報も提供する。 ③生徒の安全な学校生活のために、巡回指導を全職員で分担して実施する。 ④埼玉県サイトや本校HPを有効に活用して、情報発信の体制づくりを行う。	①地元中学校やNPOの活動に年2回以上訪問することができたか。 ②HPによる情報発信を適宜実施し、生徒の発信の機会を設定することができたか。 ③全職員で分担して、下校指導を毎日実施し、登校指導を定期的に実施することができたか。 ④埼玉県サイトや本校HPを活用して、緊急時等に効果的に利用することができたか。	◎効果的な情報発信を充実させて、地域や家庭との連携に尽力した。達成度は概ね達成。 ①所沢市内中学校やNPOへの本校案内を継続しており、希望者には個別説明会を開催している。 ②公式HPは適宜更新しており、学校の旬な様子を伝えている。 ③全教職員の巡回指導を継続しており、生徒の学校生活の安全を確保している。 ④台風や大雪の自然災害時では、HPにて緊急案内をしている。	B	①所沢市内中学校の入学希望者への丁寧な学校説明の機会を継続していく。また、NPOとの連携する機会を模索していく。 ②HPから情報発信は時宜をとらえた内容で充実させていく。生徒からの情報発信できる体制の整備が課題である。 ③生徒の安全確保のために、巡回指導を継続していく。 ④自然災害における緊急連絡体制づくりが課題となっている。	○丁寧な、きめ細かい指導を実践していることに感謝している。このような本校の良さをもっと上手にPRしてほしい。 ○学校行事への保護者の参加がとても少ないのが残念である。保護者同士の情報交換ができる工夫をしてもらいたい。 ○緊急連絡や防犯関係の情報提供に役立つので、スクールメールやSNSの活用を検討してほしい。
3	<p>(現状) 外部人材や他機関と連携した丁寧な教育活動を展開しており、生徒への細やかな支援を実践している。</p> <p>(課題) 生徒のニーズや教員の要望に応えながら、多角的に生徒を支援していく教育体制を推進していくことが課題である。</p>	生徒の自己実現に向けて、丁寧な指導を充実させる	①高校生自立支援事業を有効に活用し、生徒の自立意識の向上につなげる。 ②個々の生徒実態に即した支援の実現のために、外部人材の活用を組織的に行う。 ③多様な実態を有する生徒に対して、系統的なキャリア教育を行う。 ④生徒会の組織が主導して、本校の伝統を継承していくとともに学校行事の精選を進める。	①育て上げネットと連携して、4事業を有効に実施することができたか。 ②多角的な生徒支援委員会を中心に外部人材と緊密に連携できる体制を構築できたか。 ③入学年次から系統的なキャリア教育を設定し、全卒業生が希望の進路を実現できたか。 ④学期ごとに生徒会主催行事を設定し、生徒の成功体験を促すことができたか。	◎行政機関等との効果的な連携体制が定着。就職決定者も増加傾向。達成度はほぼ達成。 ①高校生自立支援事業を円滑に実践でき、生徒の自立に向けた意識を高めた。 ②生徒と保護者の両者を含めた支援を実践しており、地域との連携ができている。 ③就職支援アドバイザーと効果的に連携した結果、85%の生徒が進路を実現できた。 ④生徒会が主体となり学校行事の充実に努めた。また、いじめの認知件数は零であった。	A	①自立支援事業は円滑に実施できているため、今後は教育効果を高める工夫が課題となる。 ②課題を抱える生徒の指導は、行政機関等との連携を通して、保護者を含めた社会的支援に発展させていく必要性がある。 ③15%在籍している外国につながる生徒への支援や就職指導が今後の大きな課題となる。 ④生徒会を中心とした主体的な学校行事が実践されている。今後もリーダーシップの育成が課題である。	○生徒会活動をとおして、人を喜ばせることに生きがいを感じるようになってきた。学校をもっとよくしていきたい。 ○ボランティア活動等で、生徒が地域と交流する視点が大切である。新しいことに、チャレンジしていくイノベーターになってほしい。 ○定時制の生徒が、全日制と交流ができるとよい。生徒会同士で情報交換を行うなど、できることから開始するとよい。